2022 年度　教員の自己点検・自己評価計画書

所属学部　学科	職位	氏　　名
人間健康学部 人間健康学科	准教授	山村 伸
最終学歴	学　位	専門分野
順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科 博士前期課程　修了	スポーツ 健康科学 （修士）	スポーツ心理学 バスケットボール

Ⅰ　教育活動

○理念・目標・方針・計画（方法）

（理念）

本学の建学の精神である「真に信頼して事を任せうる人格の育成」、校訓の「真面目」を念頭に学生ひとりひとりと向き合いながら教育活動を行う。

（目標）

本学の建学の精神である「真に信頼して事を任せうる人格の育成」、校訓の「真面目」を念頭に学生ひとりひとりと向き合いながら教育活動を行う。

（方針）

・演習科目、課外活動では個人面談を定期的に実施する

・講義科目では授業前後に質問時間を設けると共に、Teams を活用し授業外での質問等に対応する。

・成績、単位取得だけではなく、将来社会人として必要な素養（挨拶、言葉遣い、メールの書き方等）についても指導する。

（計画・方法）

・学生の意見や興味を持っている事項に対し理解する。

・オンライン（オンデマンド）授業で使用する Teams に関して、学生共に継続してその使用・活用方法についての知識を深める。

・学生と会う機会が減少しているが、メール・Teams などを積極的に活用し担当学生の状況把握に努める。

【報告】

新型コロナウイルスの感染状況によって、対面・リモートを併用しながら、概ね達成することができた。特に、留年生（4 年生 3 名）を受け持ったが、授業出席状況、進路決定状況などの連絡を取り合いながら、卒業・進路決定することができた。

○担当科目（前期・後期）

（前期）

スポーツ実習、スポーツ心理学、保健体育教育法Ⅰ、基礎演習Ⅰ、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ

（後期）

専門スポーツ実習（球技）、メンタルトレーニング演習、基礎演習Ⅱ、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ
卒業研究

○教育方法の実践

Teams を用いたオンライン授業の実践、Meet を用いたグループワーク、専門スポーツ実習（球技）

における ICT 機器の活用シュートフォーム動画撮影の授業内でのフィードバックなど。

○作成した教科書・教材

主に実技科目がオンデマンドになった際の課題提示（各スポーツの特性、ルールの説明、Teams を用いたクイズ形式の課題。

○自己評価

オンライン授業において、一昨年の反省を活かし内容をより充実させることができた。併用授業においては体調不良などによる欠席学生に対しての課題提示等について柔軟に対応することができた。

Ⅱ　研究活動

○研究課題

・バスケットボールにおける勝敗要因に関する研究

○目標・計画

（目標）

調査内容を論文にまとめ東邦学誌に投稿する。

（計画）

後学期：データ収集・分析、論文作成

○2015 年 4 月から 2023 年 3 月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

・澁谷智久編著,「新スポーツ科学概論-スポーツ・健康運動指導の必須知識-」, 創成社（2019）担当：142-144,「精神障がい者スポーツの世界」

（学術論文）

・山村伸,今野亮　「第 92 回東海学生バスケットボールリーグ戦におけるゲーム分析―女子 2 部・3 部リーグを対象として―」,東邦学誌,51(1),79-84(2022)

・今野亮,山村伸「大学バスケットボール授業におけるスキルテストのアセスメント学習効果からのアプローチ」,明治薬科大学研究紀要人文科学・社会科学,明治薬科大学研究紀要委員会編(51),41-48,2021

・山村伸,鴫原礼佳,葛原憲治,「NBA 2017-2018 シーズンにおける勝敗要因に関する研究」,東邦学誌,48(2),51-70（2019）

・山村伸,「本学健康スポーツ専攻教員養成課程における保健体育科教育法体育分野の現状と課題」,武蔵丘短期大学紀要,25-1,39-53,2017

・山村伸,太田あや子,福島邦男,「本学学生の体力水準と生活水準に関する調査―平成 28 年度健康栄養専攻女子学生を対象として―」, 武蔵丘短期大学紀要,24,37-39,2016

・山村伸,「教員免許状更新講習実践報告―実技科目バスケットボール―」, 武蔵丘短期大学紀要,23,87-91,2015

・中村達也,太田あや子,福島邦男, 山村伸,「本学学生の体力水準と評価方法に関する研究―平成 27 年度健康栄養専攻女子学生を対象として―」,武蔵丘短期大学紀要,23,23-26,2015

（学会発表）

・今野亮, 山村伸「大学生の特性的自己効力感と健康への興味の関連」, 東京体育学会第 14 回学会大会(2023)

（特許）

（その他）

〇科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

〇所属学会

日本体育・スポーツ・健康学会、日本バスケットボール学会

〇自己評価

東海学生バスケットボールリーグ戦の試合映像を基に論文を作成し、東邦学誌、他大学の紀要に投稿することができた。共同研究においては他大学の紀要論文への投稿、東京体育学会での研究発表をすることができた。

Ⅲ　大学運営

〇目標・計画

（目標）

女子バスケットボール部

・部員数の確保（2022 年度入学 3～4 名予定）

・東海学生バスケットボールリーグ 2 部昇格

・感染症対策の徹底

中高教職課程委員会

・保健体育科教諭の輩出

学生委員会

・クラブ・サークル活動等、学生が充実した学生生活を送る為のサポート

（計画）

女子バスケットボール部

・コロナ禍における課外活動方針の徹底（検温、消毒等）

・高校生との練習試合、コロナ禍により大会視察は出来ない事が多いので、直接高校を訪問する。

・他大学、高校生との練習試合

・愛知県社会人バスケットボール連盟への登録

中高教職課程委員会

・現役合格が望ましいが、卒業後 3 年以内など計画を立てて取り組ませる。

・学習環境の整備、教職に関するボランティア活動などの情報提供。

学生委員会

・前学期・後学期ガイダンス時の情報周知、学生会との連携

〇学内委員等

中高教職課程部会、学生委員会、人権問題・個人情報管理委員会

〇自己評価

女子バスケットボール部においては、部内の濃厚接触者発生により、4月に出場予定であった東海学生バスケットボール大会の出場辞退を余儀なくされた。その後も対人練習や対外試合が十分に実施できない状況があったが、練習方法などを工夫ながら目標としていた東海学生バスケットボールリーグ戦2部リーグ昇格を達成することができた。選手リクルートに関しては、高校の大会が中止となり選手情報の少ない中ではあったが、5名の新入部員を確保することができた。また、実戦経験の機会を増やすことを目的に愛知県社会人リーグに登録し学生の試合機会を増やすことができた。

中高教職委員会では他の教職員と連携し、円滑に業務を進める事が出来た。介護等体験ガイダンスの担当であったが、実習中の体調不良などのトラブルが発生したが、教職支援課と連携を取り対応することが出来た。

学生委員会においては、委員会を通じて学期初めのガイダンスでの各種説明・注意喚起を実施した。また、新型コロナウイルス感染症の影響によりサークル活動が停滞傾向にあるので、学生会と連携しサークル紹介、立上げ方法などを継続していく必要がある。

Ⅳ　社会貢献

〇目標・計画

（目標）

スポーツ心理学、バスケットボール（部）を通じた社会貢献

（計画）

・高大連携授業「高校生のうちに知っておきたいスポーツ心理学」

・本学オープンキャンパスへの女子バスケットボール部員派遣（サポートスタッフ）

〇学会活動等

〇地域連携・社会貢献等

高大連携授業「高校生のうちに知っておきたいスポーツ心理学」

・本学オープンキャンパスへの女子バスケットボール部員派遣（サポートスタッフ）

〇自己評価

新型コロナウイルス感染症の影響により、社会貢献は学内活動に留まったが、概ね達成することができた。今後も継続して行きたい。

Ⅴ　その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

・学内外における研究会（勉強会）への参加

・バスケットボールに関するセミナー・講習会への参加

Ⅵ　総括

コロナ禍も3年目となり、授業面ではグーグルでのリモート授業に慣れてきていたが、今年度からTeamsでの授業がメインになったことから、慣れるまでに学生も教員も多少時間を要した。また、1、2年生のノートPC所持率が100%になったことから、飛躍敵に下級生の遠隔授業が実施しやすくなった。コロナ後もICT機器を活用した講義は実施されるので、継続して自己研鑽に努めたい。研究活動においては、他大学の教員との共同研究を再開することが出来た。それにより他の研究者から刺激を受け研究意欲の向上に繋がっている。課外活動においては昨年度同様、急遽、練習や大会が中止になる事が多いため、選手のモチベーションを維持することが課題となった。バスケットボールは接触

のあるチーム競技であるため、練習内容の制限を余儀なくされるケースが多いが、個人練習メニューの工夫、目標設定、Teams ビデオ会議を活用した個人面談・チームミーティングなど可能なかぎり工夫しながら取り組んだ。選手の努力、大学からのサポートもあり、強化クラブとして立上げ時に目標としていた「4 年間で 2 部リーグ昇格」を達成することが出来た。この結果に満足することなく、更にうえを目指して行きたい。

以　上